

春合宿：北ア 北穂高岳

- ◆日程 2016年4月30日(土)～5月3日(火)
- ◆メンバー L：須田、雫、河野、山中



4月30日(土) 天候：晴れ

参加メンバーのうち山中、河野と自分の3人は松本駅にステーションビバークし、朝4時45分の松本電鉄に乗り新島々駅に向かう。臨時列車のため新島々駅に直行だ。新島々駅からバスに乗り一路 上高地へ。乗客はさほど多くなくバス1台で出発となる。朝の新緑の中進む。桜も所どころ咲いていて新緑に花を添え美しい景色である。釜トンネルを抜けると焼岳、そして西穂高の稜線。正面に奥穂、前穂高岳の吊尾根と良く見える。天気は良い。上高地のバスターミナルで合流予定の須田リーダーは横尾へ先に向かうと連絡あり。身支度を整えて最初の明神に向けて出発。

途中河童橋は大勢の観光客でいっぱい梓川は変わらず美しい流れを見せている。明神を過ぎ次の休憩地の徳沢へ、林道には雪はまったくなく快適だ。左には明神岳が迫ってくる。徳沢にて須田リーダーと合流し、次の休憩地の横尾へ向かう。梓川沿いに進む、久しぶりの重い荷物が肩に食い込みきつくなる。横尾は新しいトイレが完成していた。

横尾吊り橋を渡り岩小屋跡に来ると屏風岩が目の前に迫ってくる。すごい迫力。本谷橋を渡ると雪が急に増え急登となる。雪の詰まった沢を数回越え、樹林帯を過ぎるとSガレ。ここからは前穂高、奥穂高が見えてくる。少し登ると潤沢ヒュッテの屋根と鯉のぼりが見えた。目的地が見えてからがなかなかつかず苦しい。天気も曇りから雪がちらつき始める。やっとの思いで潤沢到着。テント場は色とりどりのテントで一杯であった。雪を整地しテント張り落ち着い

たところで一杯。久し振りの穂高の峰々を眺めながら最高の一時を味わう。いつ来ても素晴らしい。鯉のぼりが元気に泳いでいる。
(記：雫)

5月1日(日) 天候：曇り(ガス・霜ざらめ雪)

今日の計画はザイテン経由奥穂高岳に登る予定だったが、昨日夕方より細かい雪が降り出しテントの廻りは15cm位雪が積もった、今朝になっても降りやまずテントの中で様子を観ることで意見がまとまり朝食をすませ時間を持て余した。しかしながら午前中テントで燻っていても仕方ないとゆうことで稜線あたりはガスってはいた。

雪もやんできたので9時すぎ頃ビーコンの操作練習をやり外にでてザイテンのほうで訓練をおこない、一度テン場にもどり今度は各自ザックを持ち少し歩こう、穂高山荘まで行こうかとうことでテントをでたら長野県警の人がいて、天候がよくないので制限してください、ザイテンの岩場までにして下さいとのこと、それでないとか何かあったら責任持ちませんよとも受け取れる言いまわしで制限された。11時20分に行動してザイテンの岩場に12時に着き、瀬沢小屋経由でテン場にもどりこの日の行動を終了した。
(記：河野)

5月2日(月) 天候：晴れ

昨日は降雪のため停滞日となったが、今日は早朝から天気が良かった。7時出発の予定が早々に準備が整って6時半にテン場を出発した。北穂沢から北穂岳を往復するコースを行くが、すでに北穂頂上まで登山者の列が続いていた。一昨日から降り続いていた雪のため、低温で凍った雪面の上に10~20cmの新雪が積もった状態で、非常に滑りやすくなっていた。

登り始めて間もなく、頂上直下に県警のヘリが飛来し、救助活動を行っているのが見えた。後から分かったことだが、58歳の男性が北穂の頂上直下から滑落して死亡した事故だった。北穂沢を半分ほど上がってきた、かなり急傾斜の斜面に差し掛かったとき、一人の男性登山者が下山途中で滑落した。滑り落ちるといっても転げ落ちるといった状態で50mくらい転がり落ちていつて何とか止まった。

男性はしばらく動かなかったが、周りにいた他の登山者は誰ひとり助け



に行こうとはしなかった。私も30m程離れたところで男性の様子を窺っていたが、誰も近づこうとしなかったのでラッセルしながらトラバースして男性の倒れているところに近づいて行った。私が男性のところまで辿り着くと、幸いなことに自ら起き上がってきた。多少目が虚ろな感じがしたが、あれだけ長い距離を転がり落ちて来たのだから当然だろう。

「大丈夫ですか？怪我はありませんか？」と声を掛けると「大丈夫です」で返事をした。見た目は70歳くらいの男性で単独の登山者だった。雫さんから「足元を固めろ！」と指示があったので、しっかりと辺りを踏み固めてその人を座らせた。滑落してきた途中でストック、ネックウォーマー、サングラスを落としてきていたが、自分で取りに行かせると危険なので、私が代わりに取りに行くことにした。ストックは下山中の他の登山者が拾って下りて来てくれたので、20~30m登ってサングラスなどを回収した。この急傾斜をストックで下りてくるなど

無謀な行為だ。ピッケルを持っていなかったら、滑落したら止めることなど不可能だ。しばらくしたら落ち着いた様子だったので私が先導してルートまでトラバースして連れて行き、ゆっくり落ち着いたて涸沢まで下りてくださいと話してその登山者と別れた。

その後、また北穂沢を登っていくと、ものの5分もしないうちに今度は30歳くらいの男性が滑落してきた。しかし30m程で自分で止まることができた。下りは相当滑り易くなっているようだ。それから1時間ほどで北穂岳頂上に登頂した。展望が良く、周りの山々がとても綺麗に見えた。写真撮影は後にして頂上直下の北穂小屋へ向かう。小屋に着き、ベンチに座るとやっと緊張感から解放された。

1時間の長い休憩を取り、頂上で写真を撮ってから下山した。雪のダマが付くのでアイゼンを外してから下山を開始する。慎重に一步づつ下って行ったがかなり滑りやすい状態であった。一度左足が滑って尻餅をつき、滑落し始めたが焦らなかった。落ち着いてバイルの石突を刺して5mくらいで止めることができた。今回私はピッケル代わりに短めのバイルを持ってきていたのだが、やはりこの雪の状態では長いピッケルが必要であった。腰が引けたらまた滑るのは間違いないので、しっかりと腰を立てて踵からキックステップを確実に行ない下りて行った。山中さんも一度滑落したが、慌てることなく素早くピッケルで停止した。勿論滑落しないことに越したことはないが、いざというときに身に着けた経験と技術がモノをいうのだ。改めて滑落停止訓練などの基本的なことが大切なのだと思わされた。

涸沢小屋まで下りて行って、小屋前のベンチで休憩していたら、女性3人組の取材陣が周りの登山者に取材していた。山溪のワンダーフォーゲルという雑誌の来年の春山特集の取材をしているとのこと。ちょっとお洒落なパスタなど作っていたカップルや女性パーティーなどを取材していたので、うちのオジサン酔っ払いグループには近寄ってこないだろうと思っていたが、意外にちゃんと取材に来てくれた。河野さんが山の会の名刺を素早く渡すと、相手のちょっと小綺麗な女性も名刺をくれた。山岳界ではちょっとした有名人の山岳ライターの小林千穂さんだった。名刺を見て、何かの雑誌で見たことあるなあーと思いだした。山中さんのガリビエールの骨董品ヘルメットなどを自慢？しながら美人ライターに山の会をアピールした。実際に雑誌に掲載されるかどうかは別にして、なかなか楽しかった。

テントに戻ってからも酒盛りは続き、非常に愉快的な晩を過ごした。 (記：須田)

CT：5:00 起床～6:30 涸沢発～7:30 休～9:30 北穂 10:30～12:10 涸沢小屋

5月3日(火) 天候：晴れ

5時起床、ザイテンの日の出を眺めて涸沢最終日の朝食「マルちゃん正麺/醤油ラーメン」を食してテント撤収。本谷橋までは、残雪あり。本谷橋を渡り1時間強で横尾に到着。そこで合宿本体3名は上高地へ下山。山中は別れて横尾に留まることにした。

山中はその日は、槍沢ロッジ辺りまで散歩し横尾山荘に宿泊。 (記：山中)

CT：涸沢 7:00—横尾山荘 9:15



下山日、ザイテングラードの朝日

< 装備 >

まず涸沢は水には困らないので、雪を溶かして水を作らなくてよいのでガスボンベは2個しか消費しなかった。春山ということもあり暖房でも必要なかった。ただし春山の怖いところは着用している服など濡れることも想定されるので、そうなると乾かすためにガスを使わざるを得ない。なので余裕をもってガスは必要である。

また、装備関係は最新の装備で対応したいものである。重量は敵であるからだ。

最後に、最悪のことも想定して装備品は準備しよう。

共同装備

品名	個数
テント(エスパース) No.244~5 人用	1 式
銀マット	2
コップェルNo.5(4~5 人用)	1
コンロ台	2
ガスコンロ	2
ガスボンベ (中)	4
ツェルト	1
無線機	2
ロープ(9 mm)	1
ラジオ	1
ランタン	1
スノーバー	2
会期	1

(装備担当：河野)

< 食料 >

	朝食	昼食	夕食
4/30	各自	各自	豚味噌鍋
5/1	ラーメン	各自	鶏塩鍋
5/2	そば	各自	キムチ鍋
5/3	ラーメン	各自	

春とは言えまだ雪山なので夕飯は鍋にした。雪山は肉や野菜が傷みにくいので荷物にはなるが美味しさ重視でメニューを考え概ね好評だった。(食料担当：須田)

【2016年GWの遭難事故】

低温で雪面滑りやすく？遭難相次ぐ北ア

大型連休中の主な遭難



大型連休に入り、遭難が相次いだ北アルプス。死者は2日時点で長野県側で3人、富山県側2人の計5人となっている。長野県内の山岳関係者によると、一帯は4月末から続いた低温で雪面が硬くなっていたとみられ、滑落などの多発につながった可能性がある。県警山岳安全対策課のまとめだと、昨年の大型連休では、5月2日までの7日間で遭難の死者はゼロだったが、今年は4日間で3人。同課は、北アの気象条件が特に悪かったとみており、大型連休後半に向けて注意を呼び掛けている。

長野地方気象台によると、4月29日から30日にかけて冬型の気圧配置が強まり、北ア一帯でも気温が下がり、雪となる所もあった。県警によると、2日までに穂高連峰の尾根では、多い所で約30センチの新雪が確認された。

穂高連峰を望む山小屋「涸沢ヒュッテ」によると、周辺では1日にかけて気温が低い状態が続き、強風もあって、連峰への斜面はアイスバーンようになった。ヒュッテ社長の山口孝さん(68)は「アイゼンでつまずく例を含め、滑りやすいアイスバーンになったことが滑落事故の多発につながったのでは」と言う。

県山岳協会の唐木真澄会長(72)＝伊那市＝も4月29、30日に北ア針ノ木岳に登った際に、低温で雪面が硬くなっていたことが気になったとし、「雪面が硬いと滑落したときに止まりにくく、速度も増すので危険だ」と話す。

長野地方気象台は、3日夜から4日午前にかけて、寒冷前線が日本列島を通過するため山は荒天になると見通し、「標高の高い所は雪となる。風も強まり、ふぶく危険がある」とする。

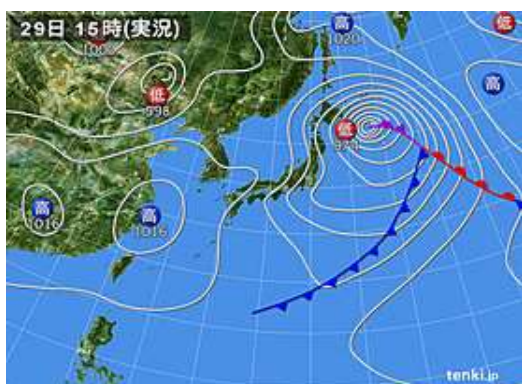
県山岳遭難防止対策協会講師の丸山晴弘さん(75)＝長野市＝は「この時季の天気は急変するといわれており、十分な装備と、天気の変化に対応できる準備が欠かせない」と強調。県山協の唐木会長も「ルート状況や気象を事前にしっかり調べ、綿密な計画を立ててから出発してほしい」と求めている。

【合宿中の天気】

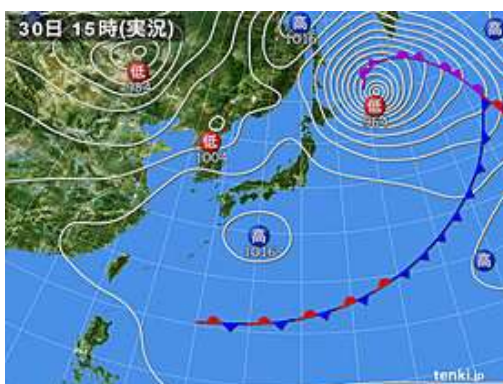
入山30日は晴れのち曇り夕方から雪。

1日一晩中雪が降り続く朝になっても止まず。午後は曇り。2日は朝から快晴。3日も快晴晴れて気温も高い。この連休は降雪もあり、奥穂高、北穂高など北アルプスで遭難発生し死亡事故となる。（気象担当：雫）

< 29日天気図 >



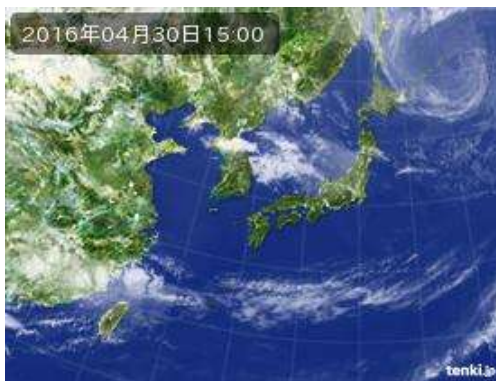
< 30日天気図 >



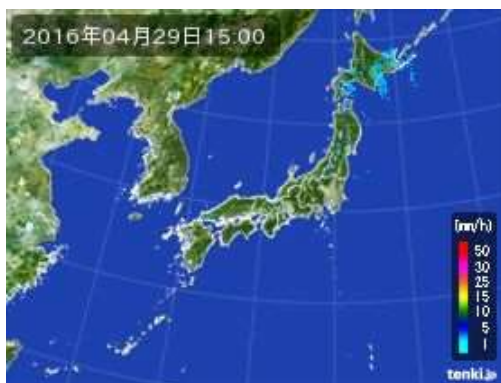
< 29日気象衛星 >



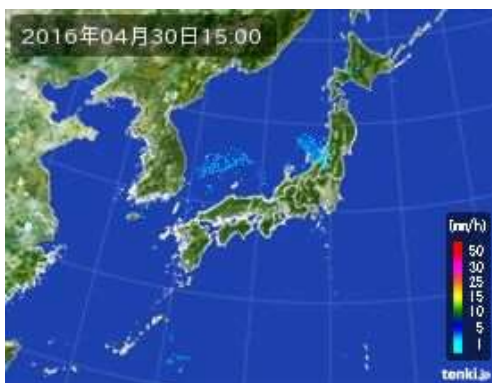
< 30日気象衛星 >



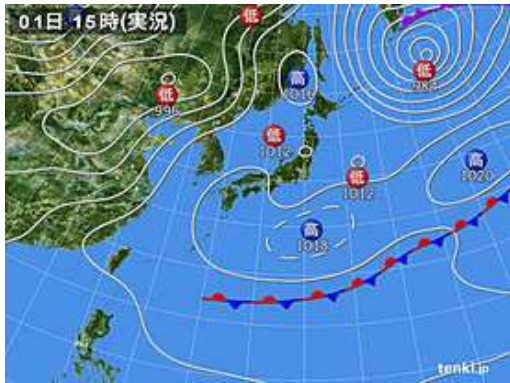
< 29日雨雲の動き >



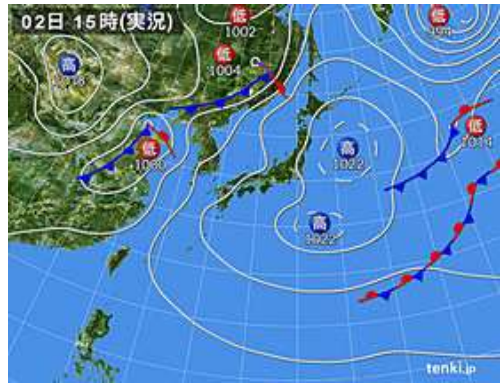
< 30日雨雲の動き >



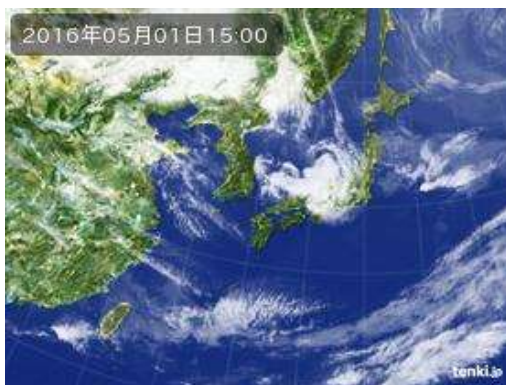
< 1日天気図 >



< 2日天気図 >



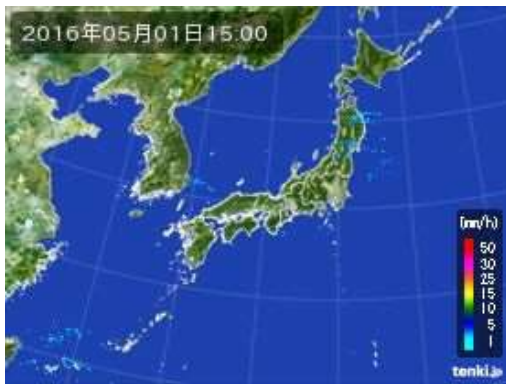
< 1日気象衛星 >



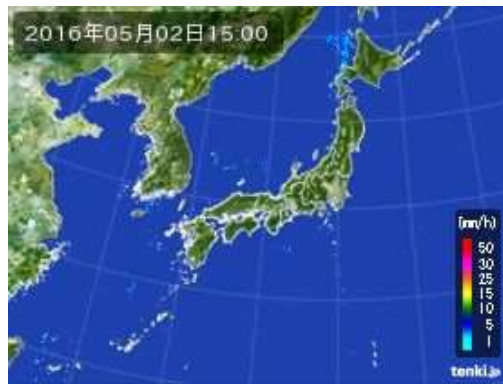
< 2日気象衛星 >



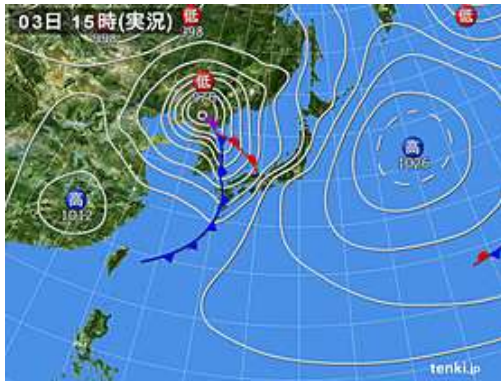
< 1日雨雲の動き >



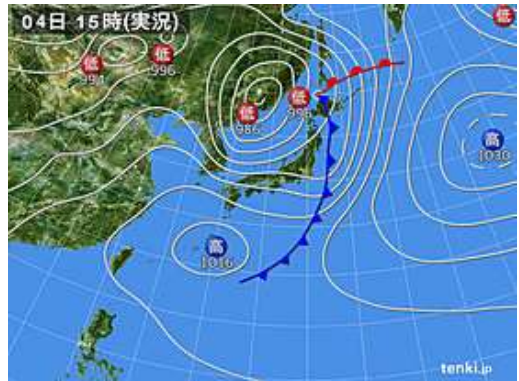
< 2日雨雲の動き >



< 3日天気図 >



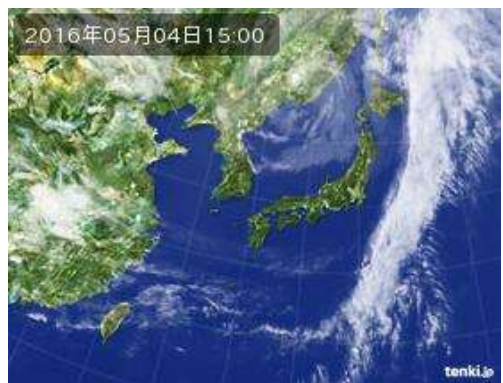
< 4日天気図 >



< 3日気象衛星 >



< 4日気象衛星 >



< 3日雨雲の動き >



< 4日雨雲の動き >

